

種まき 通信No.78

いつも市民派 ずっと無党派
小林じゅん子 議会だより
事務所 〒399-8301長野県安曇野市穂高有明9972-1
Tel. 0263-83-4387 (090-4546-3496) Fax. 0263-83-4938
http://junko.voicejapan.net/ メールはjunko@childnet.ne.jp



発行日：2022年1月24日
発行者：小林純子

◆安曇野市議会12月定例会小林じゅん子の一般質問◆

- Q 1. 優れた水環境を次の世代に受け継ぐために
- Q 2. 廃棄物処理法に基づく立入検査について

Q1【小林質問】 安曇野の地下水や水環境、水文化に寄せる市長の思いは。

【太田市長】 安曇野の田園風景、わさび、養鱒等の特色ある産業は豊かな水資源に支えられている。市の水道の水源も100%地下水である。様々な水の恩恵を受ける私たちは、水は次世代からの預かりものとの認識を持ち、健全な状態で次世代に引き継いでいくことが大切。

【小林質問】 この優れた水環境を次世代に受け継ぐには、地道な取り組みが必要。地下水量や涵養の課題は認識されているが、水質についてはどうか。

【市民生活部長】 年2回、井戸28か所で水質調査を実施、全て基準値内の数値。ほかに三郷地域3か所で硝酸態窒素の水質検査を行っているが、含有値が高い傾向にある。その6～7割が化学肥料由来、残り3～4割が堆肥や有機肥料、畜産排泄物等と見られる。

【小林質問】 化学肥料等に由来の硝酸態窒素が多い現状から、水質保全には環境保全型農業や有機農業への転換が有効。学校給食で有機米を使うなど、有機農産物の公共調達を進めることで環境保全型農業や有機農業への転換につなげてはどうか。

【農林部長】 一気に転換・拡大は困難だが、農業者の自主性を尊重しつつ、国の動向を見ながら取り組んでいく。

【教育長】 学校給食の有機化については、単価や安定的な供給の課題もあり、すぐに公共調達に切り替えることは難しいが、一部でも可能か検討していく。

※硝酸態窒素を大量に摂取すると、体内で腸内細菌により亜硝酸態窒素に還元され、これが吸収されて血液中のヘモグロビンを酸化し、酸素欠乏症になる可能性がある。
(硝酸態窒素の基準値：10mg/L以下)



*気づいていますか？硝酸性窒素等の汚染

Q2 廃棄物処理法に基づく立入検査について

M建設産業（廃棄物処理施設）の汚水が下水道に流れず地下浸透している恐れがあるため、市は令和3年2月から3月にかけて排水設備の調査を行った。しかし、この調査は廃棄物処理法に基づく立入検査として行われたにしては杜撰で、廃棄物処理行政としての市の責任が問われる状況であるため質問した。

- 1、令和3年2月から3月にかけて、市や県は、増田建設産業（廃棄物処理施設）の排水設備調査をどのように実施したか
- 2、増田建設産業（廃棄物処理施設）の排水設備調査の結果から、異状がないと判断した理由について
- 3、再調査の必要性について

市議選・投票率7%低下～投票率アップしたのは20歳代のみ 現職の多くが大幅に票を減らす！

一年前まで小林じゅん子議員の後援会会長をしていた諫山憲俊です。昨年秋の市議選では若干得票数は減らしたものの、5回目の当選を果たすことができホッとしました。しかし、30歳代、40歳代の立候補者が多く出たので投票率が上がるのかと期待したのに、逆に7%以上下がってしまったことは残念でした。

1人しか立候補しなかった公明党の基礎票がどこに行ったのか、自公の選挙協力はあったのか、また当選を危ぶむ声がかかれた候補者が当選できたのはなぜか、そして7%以上下がった投票率と何か関連性があるのか、非常に気になるところではありました。

開票速報での得票数からは、現職議員が2人を除き軒並み票を減らしたことで、しかも、多くの現職が400票、500票と大幅に減らしていることは一目瞭然で、4年間の議員活動に有権者が「ノー」を突き付けて、それが投票率低下につながったのではと、投票行動の分析以前に、そんな思いを強くしました。

更に、どの年代が「ノー」を突き付けたのかは、年齢別投票率を比較しなければわからないので、純子さんに選管からの取り寄せをお願いしました。年明けでようやくそのデータが出ましたので、さっそく4年前に18歳、19歳だった方達、つまり今回の22歳、23歳の方達の

市議会・無会派4議員の オンライン議会報告会

日時：2月6日（日）
午後2時～4時まで

増田望三郎、橋本裕二、増井裕壽、小林純子の4議員が報告します。

内容：昨年12月定例会報告
新議会での各議員の抱負

*後半は参加市民のみなさんと質疑応答や意見交換

*参加希望の方にアクセスリンクをお知らせしますので、下記アドレスへお申し込みください。
junko@childnet.ne.jp

有権者数と投票者数の差を比較すると、2年分で45票減でした。1歳毎だと22.5票減です。

同じように4年前、20歳代だった今回24歳から33歳までの方達と比べると+230票、1歳毎だと23票増となりました。

増えたのはこの世代だけで、1歳毎でいくと30歳代は46.5票減、40歳代は85.3票減、50歳代は70.5票減、60歳代は78.4票減、70歳代は110.1票減、80歳代は34.8票減となりました。結果、前職議員に批判的で選挙を棄権していたのは、若い世代ではなく、中高年世代であることがわかりました。

そんな投票率低下のトバッチリを受けて、2人の新人女性候補は惜しくも落選。これまで6人いた女性議員は4人に減ってしまったのは残念なことでした。

前職で再選された議員は、猛省すべきところ、初仕事となる議長・副議長の選挙、常任委員会や議会運営委員会の委員長ポスト人事では、過半数を占める2会派15人が揃って賛成し、ほぼこの2会派で独占する状況が生まれてしまいました。猛省するどころか、これまで以上の強権ボス政治が続くのではと心配するところです。



種まき通信No.78

「種まき通信」の郵送を希望される方は電話・メール等でお申し込み下さい。
◆「種まき通信」は年4回発行しています。そのうちの1回は新聞折込にてお届けしています。毎号の郵送をご希望の方はお申し出ください。

この数字は？ 年額12万円 議員一人当たりの政務活動費 収支報告書を公開します 領収証のコピーも公開

昨秋の衆院選のあと、注目された国会議員の「文書通信費」は月額100万円。たった1日の在職でも満額支給されることや、報告・領収書提出義務がないことが批判を浴びました。一方、地方議会では、これまで「政務活動費」の不適切な支出などが問題になってきたことを反省し、収支報告書や領収書の公開が進んできたので不正な使用は抑制できていると思います。

安曇野市議会では、会派（無会派を含む）に対して、所属議員1人当たり年額12万円が交付されています。市議会議員の改選に伴い、令和3年度4月から10月分までの政務活動費収支報告書と領収書等が、市議会ホームページで公表されましたのでお知らせします。今回から、領収証のコピーも公開することになりましたので、市民のみなさんにもぜひチェックをお願いいたします。

この数字は？ 年額76万円 議会文書用の紙代金 枚数にして16万枚 急げ！ICT化でペーパーレス

安曇野市議会ICT研究会ではペーパーレス化に向けて、議案書や様々な紙情報をタブレット端末で閲覧・保存できるよう準備を進めています。ただ、市議会の予算要求に対し、市からは「タブレットを導入して議会をどうしたいんですか？」と疑問を投げかけられているので、予算折衝よほど頑張りたくない、もう1年先になりそうです。

「資料見ましたが、紙代だけで76万円、枚数16万枚って、会社なら怒られるレベルですよ！」とは、若手新人議員の言ですが、私もそれを聞いてビックリ！ペーパーレス化が進むだけでも、タブレット導入の価値はあると思っています。

8年前の市議選の時に「安曇野市のコピー費用は年間4,000万円を越す。他市に比べ高すぎる、見直しが必要！」と訴えましたが、今では3,000万円以下に。市議会もペーパーレス、進めましょう。

「書類カバンは何と重いことか！」

自転車健康づくり・観光振興・スポーツ振興！？ マウンテンバイクコース事業に反対する



議決にあたって、クロスカントリーコースの現場も見てきましたが …

議案第104号 安曇野市体育施設条例の一部を改正する条例に反対しました。以下、採決に先立っての反対討論です。

この条例は、安曇野市の体育施設に新たにマウンテンバイクコースを位置づけ、その利用について定めるものですが、私は、そもそもマウンテンバイクコースの建設自体に反対しており、これが完成して供用開始されるにあたって安全に安定的に運営され市民に喜ばれるものとなるか危ぶまれるので反対するものです。

現在、策定中の安曇野市自転車活用推進計画には、自転車を活用した健康づくりの推進の一環として、マウンテンバイクコースの設定は既定の事実として盛り込まれていますが、それにしては現実のコース整備の状況、健康増進や観光振興との連携等、計画推進にちぐはぐな状況が見えます。

ちょうど1年前の12月議会に（※1）提出された令和2年度安曇野市一般会計補正予算（第7号）に、マウンテンバイクコース平面図化業務委託費というものが出てきました。市が進めている「自転車を活用したまちづくり」の一環として、マウンテンバイク（MTB）コースを整備する方針だというのですが、その説明を聞けば聞くほど、なぜ事業の全体像を明らかにしたうえで当初予算で出してこなかったのか、今ごろ補正予算で小出しにしてくるのは何故なのか疑問を持ちました。マウンテンバイクコースの設計図を作るための33万円の補正予算、「33万円ぐらいなら、否決されることはないだろう」、そんな安易さが感じられる事業計画に私は反対しました。

その後の3月議会では、（※2）新年度予算に1,300万円というコース建設費が出てきました。「ダウンヒルコースとクロスカントリーコース、それぞれの設置目的と具体的な活用はどうするか」、「初心者や家族連れが楽しめるようなコースと、全日本クラスの競技会

もできるコースの共存が可能な地形か」、「自動車に自転車を積んで登らないと利用できないコースなので、一般受けしないのではないか」、「自転車による健康づくり、観光振興、スポーツ振興との連携、協力は」等々、いろいろ確認しましたが明快で納得できる説明はありませんでした。

維持費はどれぐらい見込んでいるか聞いたところ、「具体的な試算はこれからです」との答弁。維持費がどれだけかかるかの検討もなく、1,000万円のうえかかるマウンテンバイクコースを作ってしまう、という予算は認めることができませんでした。

今、このコースはほぼ完成し、反対したところでどうなるものでもありません。むしろ、前市長のトップダウンで進められたマウンテンバイク事業に、担当の職員は懸命に取り組み、今後の可能性につなげるところまでできたことは評価したいと思います。

しかし、前段で述べたように、十分に練られていない事業計画を補正予算で安易に予算化し、既定の事実として進めていくやり方は、結局は市民のためにはなりません。今後への警鐘という意味を含めて、安曇野市体育施設条例の一部を改正する条例には反対します。

この私の反対討論のあと、中村今朝子議員と竹内秀太郎議員の賛成討論が続き、採決の結果は賛成多数で可決。反対したのは私一人。「コースはもうほぼ出来上がっている。いまさら反対できない」という声も聞こえてきましたが、反対もあったと議事録に残しておかねばと考えた末の反対でした。



▲ほりで一ゆ〜四季の郷から少し上ったあたりに、マウンテンバイクコースを整備